

東京都健康長寿医療センター 養育院をルーツとする高齢者専門の医療機関



2009年に誕生した地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの淵源は、1872年に創設された養育院に遡ります。首都東京の困窮者、病者、孤児、老人、障がい者の保護施設だった養育院は、1879年から1931年まで50有余年院長を務めた渋沢栄一の尽力により、廃止論の逆風を受けながらも存続し、事業を拡大しました。養育院の名前は2000年の都の条例廃止により消えてしまいましたが、守り続けてきた福祉の精神は、今もなお健康長寿医療センターに息づいています。

健康長寿医療センターに残る渋沢栄一の足跡

①旧養育院長渋沢栄一銅像、養育院本院の碑

健康長寿医療センターの敷地内に建つ銅像です。50年以上にわたり養育院長を務めた渋沢栄一の功績を讃えて1925年に制作されたもので、除幕式には渋沢栄一本人も出席しました。第二次世界大戦中には金属供出されることになりましたが、運び出される前に終戦を迎え、その難を逃れています。また、銅像のそばには養育院本院の碑が建てられており、碑の「養育院本院」の字は、渋沢栄一の墨蹟を刻んだものです。



渋沢史料館所蔵

②養育院・渋沢記念コーナー

健康長寿医療センターの2階に開設された展示スペースです。初代養育院長渋沢栄一のもと事業展開に貢献した先人たち、養育院から派生分化した専門施設、戦後の高齢者医療・福祉・研究の歩みを紹介しています。開放感のある明るい円形ホールが特徴です。



③板橋警察署 養育院前交番

東京都健康長寿医療センターの隣、東武東上線の線路側に建つ交番です。養育院の敷地の一部を提供して設けられました。

